

## 歯科医院見学実習事前教育教材ビデオ 『歯科医院について知る—その機能と役割—』の制作

山崎 晴美 尾崎 哲則 網干 博文 上原裕美子  
高津 茂樹 伊藤 公一 桑田 文幸 大塚吉兵衛

### The video material ; “About a Dental Clinic”

Haruyoshi Yamazaki, Tetsunori Ozaki, Hirofumi Aboshi, Yumiko Uehara  
Shigeki Takatsu, Koichi Ito, Fumiyuki Kuwata and Kichibee Otsuka

#### Abstract

The present research evaluates the audio-visual teaching materials adopted at the Nihon University School of Dentistry as part of the Medical Humanity curriculum. The video material is intended as a general introduction to dental service in Japan and as a method for showing participating students how to behave and observe the dental clinics they are scheduled to visit as a part of their education. The material is also intended to provide students with vocational awareness.

**Key words** : dental education, medical humanity, video material, dental clinics.

### 1. 緒 言

日本大学歯学部では、平成12年より、幅広い教養と総合的な判断力を身につけることの意義を意識するとともに、歯科医療の現場を体験することにより、将来の目標を確認し、医療人としての良識と豊かな人間性を体得することを目標として、第1学年から第4学年の前後期にわたって「医療人間科学」の科目を実施している。その中で、歯学部第1学年では歯科医院（診療所）見学実習を実施しているが、これは、キャリア教育の一環として、歯科医療の現場における Early exposure として、また第5学年に行われる「臨床実習」に先行するインターンシップ教育として行われている。見学実習は事前事後学習を含むものであり、「実習必携」「指導要領」等のマニュアルを作成して行っている。第

1学年の前期教科「健康と社会」の一環として実習では、歯科医院の一日を体験することにより、将来の歯科医師としての自己の在り方生き方を考える機会を提供している。

本実習では、夏休み中に歯科医院において2日間の見学を行っている。事前事後教育を含む実習プロセスを通じて、社会と職業と自己との関わりについて関心を高めていくことが目的となる（図1参照）。

事前学習において歯科医院に対する理解を深めるとともに、実習書類を作成するプロセスを通じて、契約に対する関心を高め、歯科医院へのコンタクトや事前訪問を通じて自分で社会に接する機会を得ていく。

実習テーマは、事前学習の一環として少人数でのグループミーティングを行い、その後、各自の実習先歯科医院との話し合いで決定させて

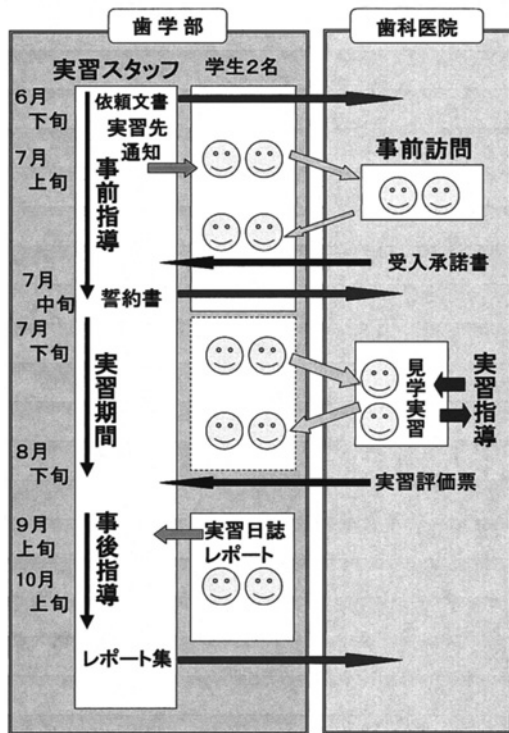


図1 歯科医院見学実習のながれ図

いる。

見学中は、患者でもなく、スタッフでもない中立的な、第3者的な立場から歯科医療の現場を、「壁になって」見学することとなる。この点がスタッフ側の立場で「関与しながらの観察を行う」第5学年と異なっている。学生には、歯科診療所における歯科医師の1日を「治療行為以外」の観点から観察するように指示している。見学における観察目標として、本実習全体のテーマである

- ・ 共通テーマ (GIO)

「歯科医院における人間関係を観察する」に加えて、

- ・ 個別テーマ (SBOs)

- ①職業としての歯科医師のあり方を知る
- ②組織としての歯科医院のあり方を知る
- ③地域における歯科医院のあり方を知る

を設けている。学生はこれらについて観察するが、この中から各自の興味に応じて個別実習テーマを設定させている。なお、レポートの課題となる個別実習テーマは、最終的には、事前訪問時に、歯科医院の指導のもとで決定していく。

リフレクション（振り返り）としては、実習中は実習日誌を記載し指導医の指導を受けるとともに、実習終了後はテーマに即したレポートを提出する。これは、後日冊子にまとめシェアリングする（共有化）また、少人数でのグループミーティングを行ってシェアリングを行うとともに、後期教科「歯科医療史」において、学生のレポート等をもとに、歯科医療の視点から意味づけを行っている。

以上の実習を通じて、医療サービス機関としての歯科医院のあり方を観察するとともに、診療を受ける患者さんの全人的理解、すなわち一人の人としての患者さんと、その生活のあり方に対する理解を通じて、医療サービスが提供されていることを理解していく。また、そのようなサービス提供者としての歯科医師の姿を、自己の在り方を考える材料としていくことになる。

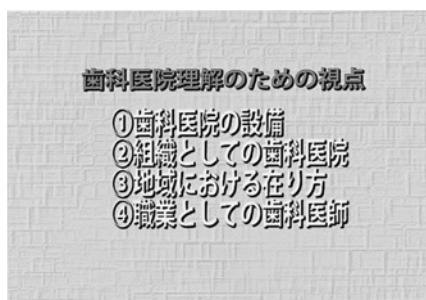
このような見学実習を、効果的に行っていくためには、歯科医院に対する基本的な知識と、明確な見学の視点を持つていなければならない。しかし、引受先の歯科医院からは、あまりにも歯科医院について知らなさすぎるという意見が毎年出されている。尾崎他（2005）は、本学新入生に対して実習の事前アンケートを行っているが、学生の半数は歯科医療者と接した経験が無く、その中には歯科の治療経験が全くなく、歯科医院を知らない者もいたことを指摘している。このことは、実習に臨んで、歯科医院や歯科医師に対して、漠然としたイメージしか持っていない学生も存在することを示している。したがって、事前教育において、歯科医院



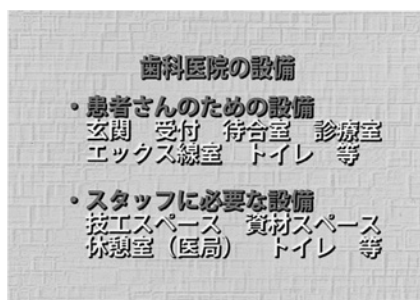
a .



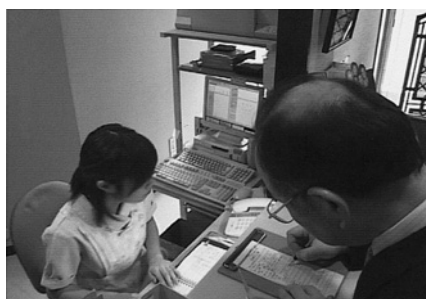
b .



c .



d .



e .



f .



g .



h .



i .



j .



k .



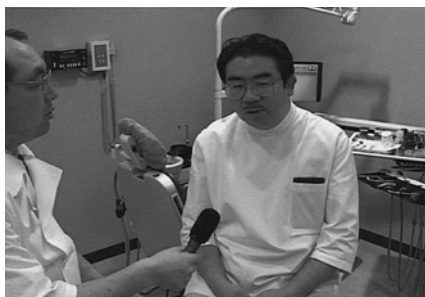
l .



m .



n .



o .



p .

図2 ビデオの各シーンの流れ

に対する理解を深め、実習に対する動機付けを高めることが求められており、患者体験を持たない学生にも実習テーマへの関心を高めることを目的とした視聴覚教材を作成し使用することは有用であると思われる。本研究は、この目的のために制作された教材ビデオ『歯科医院を知る—その機能と役割』について報告するものである。

## 2. ビデオ教材『歯科医院を知る—その機能と役割』の構成

本教材は、歯科医院見学実習の事前学習において、歯科医院の機能と役割を説明する授業場面（尾崎担当）で上映する目的で制作された。撮影は港区のオフィス街にあるF歯科において、その同意と協力を得て行われた。内容は、コメンテーターとして、共同研究者の尾崎が歯科医院を訪問し、解説していくものである。出演者は、他に歯科医院長、歯科衛生士2名、模擬患者（共同研究者山崎）。制作スタッフは、尾崎哲則（監修）、網干博文（撮影）、上原裕美子（進行）、山崎晴美（企画・編集）。

本ビデオは、タイトル、クレジットを含め13分36秒で、4パートより構成されている。シーンの流れを図2に示す。以下に各パートの概要を述べる。

### A パート 「歯科医院とは」

本ビデオの導入部である。歯科医院理解のための視点として以下の4点を提示する。これは3つのSBOsに「歯科医院の設備」を加えたものである。

- ① 歯科医院の設備
- ② 組織としての歯科医院
- ③ 地域における在り方
- ④ 職業としての歯科医師

### B パート 歯科医院の設備

ここでは、歯科医院の設備を、患者さんのための（患者さんの目に触れる）設備とスタッフ

のための設備とに分けて説明する。本ビデオでは以下の設備を紹介した。（ ）内は今回のビデオには登場しない。

#### ① 患者さんのための設備

玄関 受付 診療録（カルテ）  
待合室 掲示 リーフレット 雑誌等  
診療室  
ユニット周り

診療椅子 デンタルライト シャーカステン ブラケットテーブル 基本セット  
タービン エンジン スリーウェイシリンジ バキューム 排唾管 スピット  
介補サイドなどを実際に操作しながら解説する。

エックス線室（トイレ）

#### ② スタッフに必要な設備

滅菌スペース 技工スペース（資材スペース）  
休憩室・医局 トイレ）

#### C パート 歯科医院のスタッフ

歯科医院のスタッフとしては歯科衛生士、歯科技工士、受付事務、歯科助手などが挙げられるが、ここでは歯科衛生士の役割について解説していった。

定義と業務、器材を整え待合室の患者さんと呼ぶ場面、Four Hand System を収録

#### D パート 地域における歯科医院の在り方および職業としての歯科医師

地域にあって歯科医療を提供している歯科医師の在り方について、院長にインタビューした。

## 3. 授業における使用について

歯科医院見学実習の事前教育にあたる授業時に本ビデオ教材を提示し、その後教員より解説を行った。授業終了時に、授業に対する学生からのフィードバックとして、本ビデオに対する感想を、出席カードの裏面に記入してもらったものを、KJ法に準じて構造化したものを図3に示す。

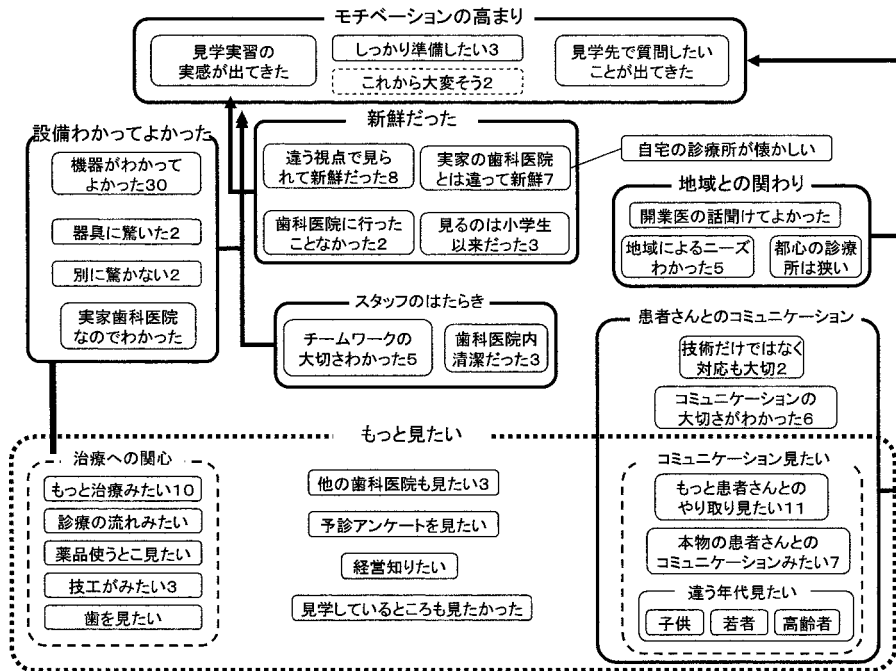


図3 学生の感想のKJ図

機器等の設備がわかってよかったが多く見られ、患者としては見ている、その名称まではわからない機器器材について関心を示していた。また、「患者とは違う視点で見られて」「実家の歯科医院とは違って」新鮮だった、さらには「歯科医院に行ったことがない」「小学生以来で新鮮だった」という感想が見られた。「地域によるニーズがわかった」「開業医のはなしがきけてよかった」といった感想は、地域との関わりへの関心を示していると言えよう。「チームワークの大切さがわかった」「清潔であった」などのスタッフのはたらきは、組織としての歯科医院に関する感想である。「技術だけでなく患者さんへの対応も大切」「患者さんとのコミュニケーションの大切さがわかった」といった患者さんへの対応についてよかったとの感想もみられたが、「もっと患者さんとのやり取りを見たい」「本物の患者さんとのコミュニケーションが見たい」「違う年代を見たい」といった意見も寄せら

れた。これは、他の歯科医院も見たい等とともに、学生が実際に見学して理解を深めるべき課題であろう。さらに、治療をもっと見たいとの意見も見られたが、これは、先の学年で学ぶ課題であろう。「見学実習の実感が出てきた」「見学先でしたい質問がでてきた」「しっかり準備したい」といった実習への動機付けの高まりを述べた学生もいたが、「これから勉強が大変」と述べた者もいた。

#### 4. 結 語

今回、歯科医院の機能と役割を解説したビデオを作成したが、歯科医院見学実習に臨むための基礎知識を提供し、動機付けを高めるのに効果的であったと思われる。ここ数年、新入生の歯科医療の受療経験の質と量は変化しつつあり、「歯科医院を知らない学生」、「歯の痛みを経験したことのない学生」が増えつつある。今後の医療人間科学の授業において、いかに患者へ

の共感的態度を育て、患者中心の医療を教育していくか、検討を続けていくことが求められよう。

### 謝 辞

本ビデオ教材作成にあたり、福沢歯科院長福澤洋一氏のご協力をいただいた。ここに感謝申し上げたい。

本研究を実施するにあたり日本大学歯学部佐藤奨学金（研究）の補助をいただいた。

### 学会発表

本研究の一部は、第24回日本歯科医学教育学会総会・大会（2005）において発表した。

### 引用文献

尾崎哲則，山崎晴美，上原任，上原裕美子，網干博文，高津茂樹，桑田文幸，伊藤公一，大塚吉兵衛（2005），本学部新入学生の歯科受診経験と早期体験学習についての検討，第24回日本歯科医学教育学会総会・大会プログラム・抄録集，P.53.